

令和3年度 学校評価報告書

小樽市立朝里小学校
校長 遠藤 隆典

1 本年度の重点目標

自ら考えて、自ら行動する朝里の子の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	児童アンケートにおいて、平日、「全く家庭学習をしない」と回答した児童の割合を5.0%以下とする。	A	全校で落ち着いた学習環境を構築し、学習意欲向上と学習内容の定着を図っている。「家庭学習を全くしない児童0」を目標に、全校級で宿題の取組の徹底や家庭学習の手引きをもとに働きかけを行い3%となっている。	A
	特別支援教育の充実	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童の指導計画の中間検証と見直しを100%行う。	A	児童個々の特性や困り感がどこにあるのかを、特別支援学級担当全体及び管理職で意見交流し、指導計画飲み直しは100%行いながら効果的な指導へ向け日々の連携を重視し取り組んでいる。	A
	国際理解教育の充実	外国語活動及び外国語の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を80.0%以上とする。	A	外国語専科加配の講師とTT授業の充実を図り、学習活動の充実と定着につなげている。フォニックスの指導や言語活動の充実を進め、より聞き取り書き表す力を高めている。82%の児童が楽しさを感じている。	A
	理数教育の充実	算数・理科の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を80.0%以上とする。	B	言語活動の工夫と指導方法工夫改善加配による少人数・TT指導、資料を活用したノート指導で主体的・協働的な学習の充実を進めている。71%の児童が楽しいと感じ、86%の児童がよくわかると感じている。	A
	情報教育の充実	「おたるスマート7」の児童アンケートにおいて、「名前や顔写真などの個人情報」は公開しないと回答した児童の割合を95.0%以上とする。	B	情報モラルに関わる各種資料配付の際や学活及び道徳科の授業において情報モラル意識を高める指導を行っている。保護者の意識を高めるまでには至っていないのではたらきかけを工夫していく。	A
	キャリア教育の充実	地域のお店や施設見学などで働く人の様子を学ぶ体験的な学習を2つ以上の学年で実施する。	A	感染対策に気をつけながら、地域での探究的な学習や地域で活動する人を招き話をきいたり、介護体験をする学習を2つの学年で実施した。	A
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で主体的に学ぶ力を高め学習意欲を高める働きかけを行い、保護者とも家庭学習として目指す姿を具体的な姿として共有しながら働きかけていく取組をおこなっていく。 ・学力につながる確かな資質・能力の定着へ向け、落ち着いた学習環境づくりを継続しながら、全校で授業改善のポイントを今後も共有し重点化しながら取り組んでいく。 				
学校関係者評価委員による意見	<p>評価・改善方策はともに適切である。学校はコロナ禍の中、非常に頑張っている事が伝わってくる。ここ数年で朝里小学校の地域での評判はとても良くなっていると思う。市内で一番大きな学校で、教職員一丸となって教育するのはとても難しいことだと思いますが、朝里小の緊急時の判断・対応などの早さも、大変安心感を感じている。のびのびと子どもたちを育てているのが良い。</p>				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	児童アンケートでの「自分にはよいところがあると思う」という設問に、肯定的な回答をした児童の割合が85.0%以上とする。	B	学校経営の重点として、児童に丁寧な目を向けたあたたかいかわりを全職員で行い「良いところがある」という回答が79%に高まった。今後も継続し児童の自己肯定感を高める指導を行っていく。	B
	ふるさと教育の充実	社会教育施設や学芸員等の外部講師を活用したふるさと教育を2つの学年以上で実施する。	A	外部講師による出前授業や博物館でのふるさと学習を5学年で実施した。3年生は、社会科と総合的な学習を横断的に連携させ地域を調べ郷土学習を学習発表会で発表するふるさと教育の授業をおこなった。	A
	読書活動の推進	児童アンケートにおいて、「読書が好きだ」という設問に、肯定的な回答をした児童の割合が80.0%以上とする。	B	学校図書館の貸し出し管理のデジタル化と環境整備を行った。児童の委員会活動も活発に実施し、「読書が好き」という回答が72%に高まった。読書週間の定着は個人差が大きいが全校的に読書機会を充実させていく。	B
	体験活動の推進	地域への歴史や人・自然への理解を深める学習を、2つの学年以上で実施する。	A	全学年において、地域における体験的な活動を行っている。	A
	コミュニケーション能力の育成	児童アンケートにおいて、授業で、話し合い活動に進んで意見を発表している、肯定的に回答した児童の割合を70.0%以上とする。	A	肯定的な回答が74%と高まったが、学習活動に受動的な傾向がみられる。主体的に進んで言語活動に取り組む意識を高められるよう全校で様々な場面で働きかける取組を行っている。	A
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合を95.0%以上とする。	B	「いじめをいけないことだ」と回答した児童が87.2%にとどまった。重点目標でもある「思いやり」を全教育活動及び道徳科を通じて、今後も重み付けを行いながら指導を行い、いじめのない学校づくりを進める。	B
改善方策	<p>「全職員で朝里小全児童を育てる」「あたたかいかわりを行う」という生徒指導ビジョンの共有を今後も重視していく。個々の向上心を高め、自信をもたせられるように、学校全体での一体感のあるかわりを行いながら教育活動の充実を図っていく。主体的な姿を大切にする指導の工夫や読書に親しむ機会づくりなど学校課題として課題意識を共有し全校で取り組んでいく。</p>				
学校関係者評価委員による意見	<p>評価・改善方策はともに適切である。道徳こそが長い人生において重要だと考える。自己肯定感が低い子どもが増えているように感じる。学校で褒められる頑張りがあっても保護者が気付いていないこともある。コロナ禍で授業参観などが減り子どもの頑張る姿を見る機会が減っているのが残念です。朝里小では、毎週学級の様子をホームページで伝える取組をしているが、保護者にとってもうれしい素晴らしい取組だと感じている。いじめについては、子どもと保護者の愛情・関係が重要であり、学校はとも努力していると思う。家庭環境が不安定になると意地悪な行動などにつながるので家庭教育の環境を安定させることが大切だと感じている。</p>				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	児童アンケートにおいて、「スポーツをしたり、体を動かすことが好きか」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を80.0%以上とする。	A	運動をするのが好きと88%の児童が回答している。体育授業で興味関心を高めるめあてを提示し、意欲的な学習につなげている。また、学習展開や場や用具の工夫を図り豊かな学習の充実を目指す取組を進めている。	A
		食育の推進	保護者アンケートにおいて、「子どもは朝ご飯を食べてから出かけている」という設問に、肯定的に回答する割合を90.0%以上とする。	A	朝ご飯の大切さを様々な機会・お便りで保護者に周知している。朝ご飯率は96%と高くなっている。今後も継続できるよう児童・保護者にはたらいきかかけていく。	A
		健康教育の充実	外部講師による薬物乱用防止教室を実施する。	B	コロナ禍で計画できなかった。体育科の保健の学習の中で資料を活用し薬物の健康に及ぼす害への理解を深めさせると共に、健康に過ごすために大切な事を考え理解する活動を充実させていく。	A
改善方針	全学年で体育授業の充実を目指していくと共に、教育活動・学校生活の中で、健やかな体づくりへ向けた指導を適時行い、主体的に健康的に過ごす意識を高めていく。また、外部講師との連携した授業を感染対策を工夫しながら実施していく。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善方針は共に適切である。子どもは体を動かすことが大好きなのにコロナ禍で思うように活動できないことが残念です。オンライン等で外部講師の授業ができることはとても良いことなので積極的に検討していくといい。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	長期休業中の学習会や体験活動会に参加する児童の割合を15.0%以上とする。	B	地域の講師を招いた「冬休み木工クラフト教室」には児童の9.8%53名が参加した。長期休業中の学習会は感染対策で実施しなかった。	A
		学校と地域の連携・協働の推進	地域団体と連携した児童の安全へ向けた見回り活動を協働的に取り組み、年間3回以上の情報交換を行う。	A	日常的に連携していけるよう日々声かけを行い、必要な情報の共有に心がけている。地域の守る会の方とは平日毎日情報交流している。	A
改善方針	コミュニティースクールとして、子どもたちのために地域教育資源を有効に生かし様々な活動の実施を企画検討していく。子どもの心身の成長のために、目指す「基本的生活習慣・学習習慣・人とかかわるコミュニケーション能力」を家庭・地域で具体的に共有しながら、良き連携につなげていく必要がある。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善方針は共に適切である。もと豊倉小の教材(森の木を活用した木工の材料)を用いてコミュニティースクールの事業「木工クラフト教室」を実施できたことは、旧豊倉小に関わっていた者として感謝と喜びを感じる素晴らしい取組だった。学校と地域がどのように連携していけるかについて、もっと考えていきたい。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	朝里小中学校の教職員が小中一貫を見据えた具体的な取り組みについて検討する機会を年2回以上実施する。	A	教職員で児童生徒の実態・課題と共通実践を協議する合同研修会を夏冬2回実施し連携が深まっている。6年生が朝里中にて数学・美術の授業を受ける体験的な授業も行うことができた。	A
		教育環境の整備・充実	ユニバーサルデザインを踏まえた教室環境整備及びタブレット端末等のICT機器の日常的活用に全学級で取り組む。	A	情報担当の推進によりミニ研修を8回も行い全校でのタブレットの日常的かつ積極的な活用につなげることができた。研修部から各教室環境のベースを示し、全学級で環境整備に取り組んでいる。	A
		教職員の資質・能力の向上	全学年での算数科研究授業を行うとともに、教職員の資質・能力の向上へ向けたミニ研修会を3回以上実施する。	A	全学年の研究授業を実施した。また、公開研究会も実施し、活発な研究協議により研修が深まった。また、学校課題解決へ向けミニ研修を計8回開催するなど協働的に取り組む体制を構築することができた。	A
		学校運営の改善	職員室の環境改善と公務用パソコンを活用した効率的公務推進を進め、月2回以上の定時退勤日を実施する。	A	月に2回の定時退勤日を設定した。協働的に業務を進める体制と情報共有を校務用PCやタブレットを用いて効率的に進め、退勤時刻を早めることにつながっている。	A
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室、情報モラル教室と防犯教室を実施する。	A	1～4年生には市の交通安全課・トラック協会による交通安全教室を1回実施し、登下校事故防止を指導した。5・6年にはSNSでのいじめや個人情報・金銭トラブル、病気等を学ぶ授業を各1回実施し課題意識を高めた。	A
改善方針	全体的に職員の課題意識が高まり、取組も充実してきている。1学期には中学年児童が交通事故に遭う事案が発生したので、日々、安全意識向上を働きかけ、取組の充実と工夫改善につなげていく。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善方針は共に適切である。コロナ禍の中、教職員の皆様には感謝の言葉しかない。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館や博物館を利用した学習を2つの学年以上で実施する。	A	市立図書館での学習は、直前で緊急事態宣言となり実施できなかった。5年生が博物館を利用し小樽の歴史について、6年生がウポポイを利用しアイヌ文化について、理解を深めることができた。	A	
改善方針	今後も、実現可能な施設利用や見学、講師を招いての授業などを積極的に実施していく。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善方針は共に適切である。早くコロナが落ち着いて、もとの学校生活・事業を行えることを祈っている。					